

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大

楽天市場ウェブサイト
www.rakuten.co.jp

ネットショッピング花盛りの昨今、パソコン上で多くの人々がこの画面を目にしているのではないだろうか。より多くのアクセスを得るために、魅力あるウェブデザイン、的確な情報提供が求められる。現在、(楽天市場ウェブサイトの)ランキング&レビューのページを担当しているのが、本学OBの杉山さん。情報が氾らんするネット社会の第一線を活躍の場としながらも、そんな貴重な経験も感じさせず、冷静に今を觀察、分析する姿勢が印象的だった。

杉山敬太郎 Sugiyama Keitaro
宮城県出身、芸術学部 芸術学科 (現/美術史・文化財保存修復学科) 2002年卒業、フリーのグラフィックデザイナーを経て、編集社勤務。2005年に楽天株式会社入社。楽天市場ウェブサイトの制作を担当している。

撮影協力: スモリの象山形 (特)ヒロホーム 嶋モリ展示場

表紙のART

WEB



「舟越桂」展 学生ボランティアスタッフ

10月12日から約1か月間、本学7Fギャラリーでは、今とときめく彫刻家、舟越桂さんの個展「舟越桂 | 自分の顔に語る 他人の顔に聴く」が開催され、大きな反響を呼びました。表紙は学生運営ボランティアたちが、見学に訪れたことも芸大の子どもたちに作品の説明をしている様子。憧れの舟越桂さんから直接ガイド養成のレクチャーを受け、興奮と幸福さめやらぬ学生たちは、子どもたちの予期せぬ反応や発言に戸惑いながらも、精いっぱい舟越桂ワールドについて語りかけていました。

「g*g」とは?

今年度リニューアルした芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがすごい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民なのです。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

- 芸術学部
 - 美術史・文化財保存修復学科
 - 歴史遺産学科
 - 美術科【日本画/洋画(洋画・版画)/彫刻/工芸(陶芸・漆芸・金工・テキスタイル)】
- デザイン工学部
 - プロダクトデザイン学科
 - 建築・環境デザイン学科
 - 情報デザイン学科【グラフィックデザイン/映像】
 - メディア・コンテンツデザイン学科
- 大学院芸術工学研究科
 - 博士後期課程 芸術工学専攻
 - 修士課程【芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール】
- 研究機関
 - 総合研究センター/東北文化研究センター/文化財保存修復研究センター/こども芸術教育研究センター/デザイン哲学研究所/東アジア芸術文化研究所/社会芸術総合研究所

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2008年1月10日発行
発行: 学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上杉田3-4-5
東北芸術工科大学広報担当
TEL: 023-627-2000 FAX: 023-627-2185
WEB: www.tuad.ac.jp/
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

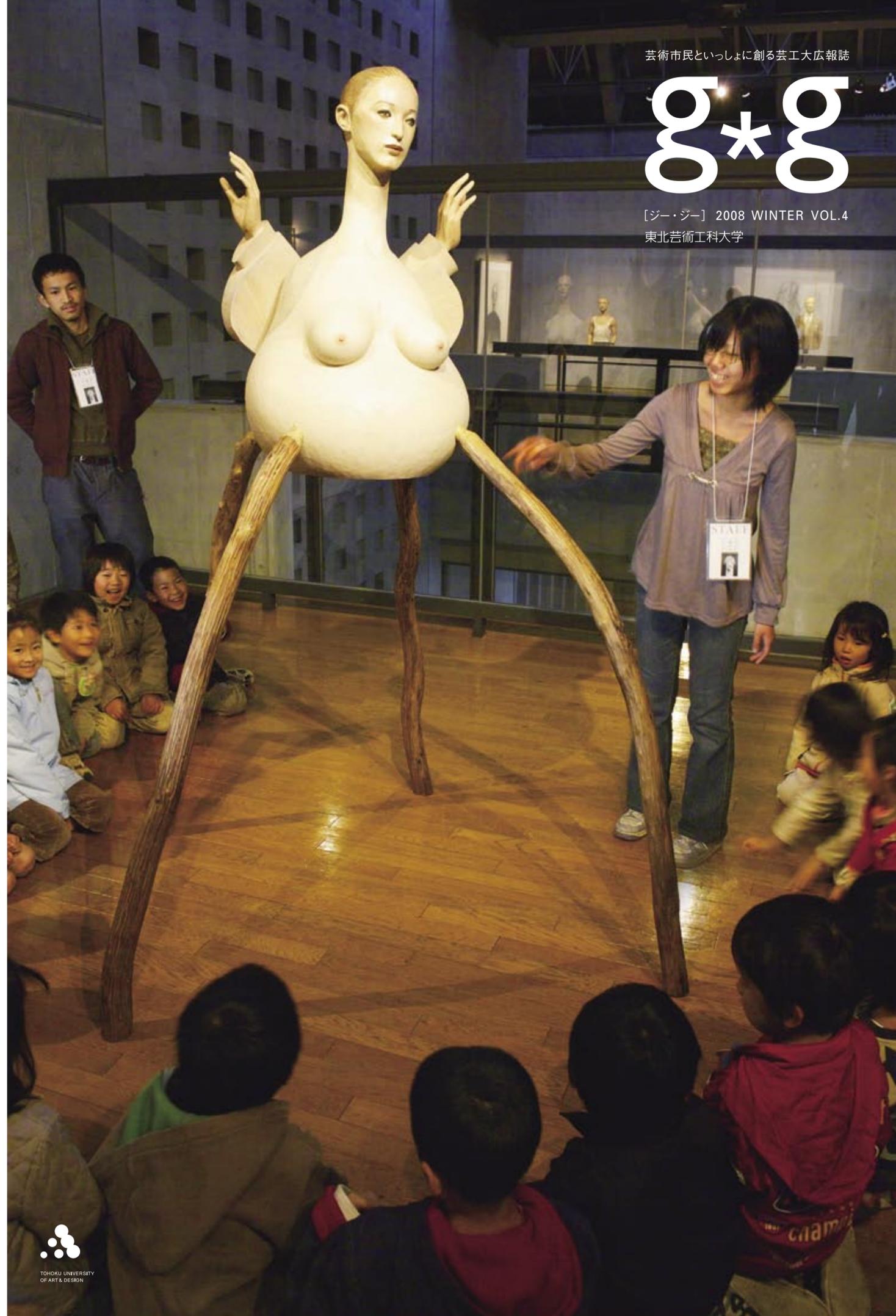
Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co.,Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2008

芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌

g*g

[ジー・ジー] 2008 WINTER VOL.4
東北芸術工科大学



TOHOKU UNIVERSITY
OF ART & DESIGN

マイナス面も敢えて表現するのがアーティスト。

私たちは、死や老いなど考えたくないことを遠ざける傾向があります。でも、それらもアーティストやデザイナーが表現し、伝えることで世界をよりよい方向へと導くことができるかもしれません。例えば、死の意味を意識させることで生命の大切さを実感させることも、アーティストなら表現できるのです。

イングリッド・ムワンギ（芸術家）

（写真：中央）1970年ケニア生まれ。芸術家として文化、ジェンダーなどの認識の違いという壁の打破に挑む。世界のさまざまな社会問題を映像作品に取り入れている。ドイツ・ドルヴィヒスハーフェン在住。



第2回世界アーティストサミット

本学の宮島達男副学長が企画監修する「第2回世界アーティストサミット」が12月1日・2日、京都造形芸術大学で開催されました。美術、音楽、ファッションなど、様々な分野で活躍する世界のトップアーティストたちならではの視点や想像力で世界を変革する具体的なアイデアを議論し、提案するというものです。坂本龍一氏をはじめ、タイ、トルコ、ドイツ、アメリカ、韓国から6名が参加。宮島議長のもと、実に自由に前向きな議論が交わされました。テロ、紛争、飢饉、環境破壊など、深刻化する一方で人々の中に蔓延する絶望感、無気力感。こうした状況を救うのは、政治でも経済でもなく、人に思いを伝え表現する心、人の心を感動させ共感させる表現、つまり芸術やデザインなのではないか。6名のアーティストは考えや提案を想像力と表現力で展開しました。現在の心境としてミーティング中に生み出した曲を披露したり、巨大な青いボードにイラストで考えを表現することも。聴衆を驚かせ、和ませ。このサミット自体がとてアートな空間と化していました。2日目の公開シンポジウムでは会場を巻き込み、現代社会でアーティストが果たすべき役割について話し合い、いくつかの具体的な提案も発表。多くの人々にアートの力を強く印象づけたことは確かなようです。

社会とアートは陰と陽、補完し合う関係なんだ。

芸術家はアウトサイダーとして社会を客観的に見ることが出来る。社会情勢がこれだけ悪い今、アーティストはポジティブな存在として何かできることがあるはず。1秒間にサッカー場1つ分の森林が破壊されているという現実。時間の流れに対する視野をもっと広げて、未来の姿を想像することも大切なことのひとつです。

坂本龍一（音楽家）

1952年生まれ。1987年映画「ラストエンペラー」の音楽でアカデミー賞を受賞。環境・平和問題に言及することも多く、9.11テロを受けて論著集「非戦」を編纂。アメリカ・ニューヨーク在住。



日本が誇るトップアーティスト坂本龍一氏（写真：左端）も盛んに発言。切実な提言で聴衆を惹きつけていました。



全国高等学校デザイン選手権

「世界アーティストサミット」2日目の公開シンポジウムでは、オープニングプレゼンテーション—高校生からの提案—として、本学主催の「第14回全国高等学校デザイン選手権大会」で入賞した3校9名の高校生が発表を行いました。静岡県立伊東高等学校城ヶ崎分校の3人が雑草の生命力を生かした「エコルーフ」を、岩手県立盛岡工業高校の3人は地元への愛着と自信を込めた「岩手発めんこいメイク」を堂々とプレゼンテーション。最後に、文部科学大臣賞に輝いた神戸市立科学技術高校が「Made in...」を発表。食品などと同様に武器にも製造国や原材料などを提示しようという提案で、武器を製造することへの責任感を問い、その莫大な予算を平和のために充てようという提言を行っています。武器製造という角度から平和を考える高校生たちの訴えに会場は大きな感動と感傷につつまれていました。

「想」像力＝相手を想う心、イメージする力。

テロ、戦争、自然破壊……。このような事態を招いているのは想像力の欠如によるもの。その想像力を育むことができるのがアートです。アーティストは相手の気持ちを想像することに長けています。だから、ここで皆さんに「アートこそが地球を救えるのではないだろうか」と投げかけたいのです。

宮島達男（現代美術家・本学副学長）

（写真：右端）1957年生まれ。1988年ヴェネチア・ビエンナーレアバルト部門に招待され、国際的に注目を集める。長崎で被爆した柿の木の種類から育てた苗木を世界各国で植樹する「時の蘇生」プロジェクトを推進。

イメージすることを放棄しないでください。

なぜ、大金を使って人を不幸にするものを作るのですか。自分が作り出しているものに責任が持てますか。それが誰かを苦しめているということを実感として感じてください。それがどんな状況を招くかをイメージしてみてください。その膨大な予算を平和のために使うことができれば……。

神戸市立科学技術高等学校

ジェップ・テウン・アンさん、田中天さん、梶原千穂さんの3人チームの提案「Made in...」で第14回大会の文部科学大臣賞（優勝）を受賞。

遠回りや失敗も必要なプロセスと考えよう。

どっちでもいいことでもちゃんと自分で選ぶということが大事。目の前に扉があったら奥まで入ってみる。知らないまま、見ないままはおかしいことです。たとえ遠回りでもものづくりにおいてはそのプロセスこそが重要だったりもします。その都度、結果を求めないで継続して取り組むことです。

立花文穂（アートディレクター）

1968年広島生まれ。文字と紙、本を素材・テーマに作品を制作。書籍の装丁やポスターなどのグラフィックデザインも手掛ける。昨年の本学最大級のイベントとなった「舟越桂」展のポスターのデザインも担当。



上：ヴィジュアル誌「球体」創刊号。球体とは、文字が文字になる前のほじまりのカタチであり、人々が集まってできるほじまりのカタチ。（六耀社・昨年11月創刊）
左：「球体」東北特集の取材のために訪れた大蔵村での撮影風景。

2007年 アーティスト・イン・レジデンス

東北芸術工科大学美術館大構構想室では、毎年アーティストを招き、山形の地で制作し発表する〈アーティスト・イン・レジデンス・プログラム〉を実施しています。2007年度のアーティストは立花文穂さん。立花さんが責任編集およびアートディレクションを手がけるヴィジュアル誌「球体」東北特集号の取材を本学がサポートしています。今回は立花さん自らが東北・山形の各地を廻り、人々に触れ、感じたことやものを写真に撮り、雑誌の紙面を作成するというもの。その滞在期間中にはトークイベントを開催し、会場となったこども芸大には、大勢の学生や教員陣が集まりました。会場中央に配置されたテーブルには立花さん製作の作品が置かれ、「この真横から見たときの紙のうねりと、インクのノリがわかる感じが好きなんです」と、作品群も立花さん自身も独特の存在感を放出。小さい頃から文字に興味を持ち、新聞の活版文字をカラーズした作品で注目を集めるようになった立花さんならではの「文字のはなし」となりました。素材や文字に対する愛情にあふれ、感触や質感へのこだわりが感じられました。第2弾として1月16日(水)には「立花文穂の球体のはなし」を予定しています。



「球体」創刊号の写真などの作品を前に、印刷・編集について詳しく語る立花さんと、真剣に聞き入る学生たち。

芸術家 * 現実社会

今、世界が求めるパワーは『想像力』の中に。

アートやデザインの表現で、原動力となるのは想像力と創造力です。しかしその目には見えない、『想像力＝イメージする力』は、芸術の分野を超え、現代社会が抱える様々な問題を解決するカギになるかもしれません。そんな期待と予感が、実態へと変わる出来事たち。名のあるアーティストやデザイナーたちが、ごく普通の若者たちが、『想像力』がもつパワーを立証してくれているようではありませんか。



特に心に響いた案件については取材にお邪魔することも。



仙山線宝さがしプロジェクト

1994年にスタートした本学情報計画コースの「やまがた宝さがし」。それを母体に「NPO法人宝さがしから地域デザインを考える会」を設立し、教員と卒業生有志が中心となって「仙山線宝さがしプロジェクト」に取り組んでいます。山形と仙台をつなぐ仙山線を単なる交通手段ではなく、東北の自然を満喫しうるローカル線へ、財産へと成長させようという活動です。その第一歩として、仙山線沿線にまつわる大切なモノ、こと、人、場所、思い出などの「宝」を広く一般に募集しています。その宝こそがきつと地域を支える力になり魅力であると考えます。ぜひ皆さんも地域の良い部分を、改めて想像してみてください。コツコツと宝を集め（発見）、各メディアを通して紹介（発信）し、それを地域デザインの土台にする（展開）の3ステップを踏んで、2010年、仙山線宝さがし展の開催を目指しています。

WEB:www.future-design-johokeikaku.jp/senzan/ WEB

成果を急がないで、じわりじわりと地域に元気を。

情報の魅力は時間とともに衰えてしまっていますが、思い出や宝ものはそうではないはず。地域の宝を見つめることで、地域のためには本当は何をすべきで、何をすべきではないかが見えてきます。そして、それが地域をデザインする動機となるのです。

山下英一（情報計画コース准教授）

芸工大生 * 造形大生

山形と京都、互いに刺激し合いながら これからの創作活動でも切磋琢磨を誓う。

芸工大と姉妹校の京都造形芸術大学とで『第8回 デッサン・ドローイングコンクール展〜風土〜』を開催。山形賞を受賞した造形大生が本学を訪れ、京都賞を受賞した芸工大生とそれぞれの風土や作品について語り合った。



左から：野瀬昌樹（美術科洋画コース2年）／佐藤香（美術科洋画コース2年）／松本高志（京都造形芸術大学 大学院芸術表現専攻1年）／義本真也（京都造形芸術大学 美術工芸学科洋画コース4年）

佐藤 山形の芸工大の印象はどうか。
松本 山の麓にあるという点では京都の造形大も同じなんですけど、ここは高台にあってゆったりしているいいですね。
義本 眺めもすごくいいですね。
佐藤 今回の展示は「風土」がテーマでしたが、みなさん、どんな思いで作品を描いたんですか。
松本 僕は、1年ほど前から描き続けているシリーズの延長線上で、僕の中に染みこんでいる風土を表現したつもりです。京都



10月31日に悠創館で行われたギャラリー・トークの様子。京都からは、山形賞受賞の2人が参加。

というよりも出身地である岡山の意識の方が強いんですね。雪舟が生まれた土地なので、美しい風景画のあの感性を育んだ風土をね。
義本 僕は、風土というテーマから朽ち果てていくものをイメージして、絵や写真で見た古城の記憶をモチーフとして描いています。特に、表現しなかったのは、線の強弱とその存在感ですね。
松本 野瀬さんの作品は蓮の花に見えませんが、そうじゃないんですか。
野瀬 意図的に蓮の花を描いたわけではないんですが、風土というテーマから、そこに生きるものに興味を覚えて、誕生と死、ものの流れるような営みを描くうちこういうカタチになった感じです。佐藤さんの腐葉土っていうのは？
佐藤 私は、植物のサイクルを通して生命の循環を描きたかったんです。植物が芽から生長して、やがて枯れて土に帰って行くといった……。
義本 実際に腐葉土を見て描いたという

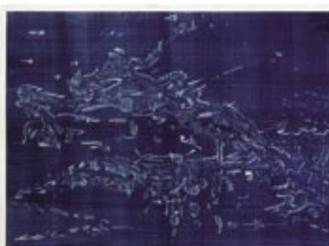
ことですか。
佐藤 いいえ、モチーフはゴーヤのカビとバラのドライフラワーなんです。青っぽい部分は、ハーブティーの汁を使って表現しています。
野瀬 さっき、松本さんは出身地の岡山の影響というようなことをいってましたね。僕は埼玉出身なんですけど、ここ山形の風土に触発されている部分が多いです。以前は、はるばる秩父とかまで遠出しなないと見られなかった風景が、山形にはすぐそこにあるんです。山寺とか、蔵王とか。
佐藤 私は、福島県出身なので環境的にはそう大差はないはずなんですけど、私の中でも芸工大に来て確かな変化を感じますね。
義本 僕は、風土とか出身地とか意識したことないけど、影響はあるんだろうね。
野瀬 今度は、僕たちが京都に行って造形大や京都の風土に触れてみたいですね。
松本 その時は、また違った観点で絵の話ができればいいね。
佐藤 今から楽しみにしています。



「腐葉土」佐藤香（京都賞）



「アナタノトコロへ」松本高志（山形賞）



「古城」義本真也（山形賞）



「流々」野瀬昌樹（京都賞）

姉妹校との交換留学

開学以来、本学は京都造形芸術大学と姉妹校として提携しています。教員・学生の交流活動を通じて、相互の発展や学術・芸術文化の向上に努めるとともに、「京都文芸復興＝京都学」と「東北ルネサンス＝東北学」を柱として、文化交流を進めています。交換留学の他にも、両大学の学生による共同展の開催、単位互換など多くのプログラムが繰り広げられています。



海外への留学と研修

スウェーデン国立芸術工芸デザイン大学 (Konstfack) と交換協定を締結し、両大学の教員交流の他、1999年度から交換留学制度をスタートし、双方の大学で学生の派遣・受け入れを行っています。またデンマーク王立美術アカデミー建築スクールとも、教員・学生の交流に関する協定を締結し、交換留学などを展開。そのほか、海外への研修旅行も数多く実施しています。



技術とコミュニケーション能力と、 学生時代の学びの上に今がある。

学生時代から熱心に取り組んできた画像合成の分野で頑張っているのが映像コース卒業の佐竹さん。現在の会社に採用されたポイントは、さまざまなコンテストでの入賞歴と分析しています。就職活動中もコンテストに応募し、数々の賞を獲得していたそうです。入社4年目、映画やCMなどの映像、CGの合成を担当しており、大学時代の技術的な経験が大いに役立っている様子。ただし、松村先生から学んだことは、技術面以上にその先にあ

る「何を作るか」「どう表現するか」といった心構えや応用力だといいます。さらに、ここで紹介している2つの作品がそうであるように、制作は5〜30人での共同作業。ゼミや授業でのグループワークで身につけた、多人数でものづくりをするコミュニケーション術が今に生きています。実感。「おっ！これ凄いね」とか「いいね、OK！」そんな言葉をクライアントから引き出せたときの充実感が、ハードな仕事の原動力となっているそうです。



佐竹 純 Satake Jun
宮城県出身、2002年情報デザイン学科映像コース卒業。現在は、(株)ダイナモビクチャーム・デザイン部に勤務。CMや映画などのCG、画像合成を手掛けている。

●松村先生へひとこと
松村先生の授業は、驚きや発見に満ちていて、子供のような気分で受けていました。これからも作家として自分の作品を作っていきますので、ぜひまた見てください。

芸工大OB * 教授

対話の中で見いだした表現欲求。

映像コースで松村准教授に学んだ佐竹さんは、先生との日ごろの会話からさまざまな刺激を受け、自分の中の表現欲求を発見することができたという。



SURFACE [2] 200×200×900mm 回転によってバーチャルな光が作り出され、色が刻々と変化していく立体作品。



話すことで考えがまとまったり気づいたり、 そのためのよき話し相手でありたい。

「佐竹君は、学生時代から〈浜辺少年〉の名で映像作品をたくさん作り、いろいろ入賞してましたからね」と語るのは映像コースの松村先生。画像合成で活躍する佐竹さんの恩師ですが、「技術指導はしていません」と断言。松村先生の研究テーマは「視覚と認識」。目に見えるものすべてを映像と捉え、写真やビデオ、CGなど、一般的に映像として認識されているものを表現領域としています。科学雑誌でも紹介されている『光の箱』や『光のツ



松村 泰三 Matsumura Taizo
青森県出身、情報デザイン学科映像コース准教授。第18回現代日本美術展大賞受賞、ロレアル色の科学と芸術展金賞受賞。光と視覚の不思議をテーマに作品制作を展開。

●佐竹さんへひとこと
学生時代に作品をたくさん作ったことが今の仕事に生かされているのだから、今度は、その仕事で得たものを生かして作品を作り続けてほしいですね。

情報デザイン学科 映像コース

映像コースでは、「写真」「映画/ビデオ」「アニメ」「CG」の3つを主な表現方法として、新しい世界を創り出していきます。クリエイターとして感性を磨き、時代の流れを的確に捉える目を養い、映像制作の技術だけでなく、社会で欠かせないコミュニケーション能力も身につけます。様々な映像メディアの可能性を追求し、あなただけの世界を切り開いてみませんか。



情報デザイン学科 グラフィックデザインコース

グラフィックデザイナーの仕事に、もはや隔たりはありません。紙面にとどまらず、HPやゲーム、TVや展示映像、インテリアなど、あらゆるところにグラフィックは存在しています。より良い表現で人々を繋ぎ、確かなコミュニケーションを生むためにデザインは不可欠。人間の感覚や体験を重視した授業を通じて、情報の海を泳いでいくデザイナーの育成を目指しています。



TUAD NEWS 26

目で見る芸工大「できごと」セレクション



01

プロダクトデザイン学科と「Link」などが Tokyo Designers Week07に出展、受賞も相次ぐ

Tokyo Designers Week 07のストリートフェニチャをデザインし出展する学生展にて、プロダクトデザイン学科3年生の村上江理子さんの作品が、企業賞「Tokyo Design Premio 各社賞デザインワークスプロジェクト賞」を受賞。また、大学院生産デザイン領域の学生によるデザインユニットLinkが、部門賞「Daily Casa AWARDS 2007」で「新人たち賞」を受賞しました。東京デザイナーズウィークは、22年目を迎えるデザインイベント。本年は10万人の来場を見込み、都内の中心地・明治神宮外苑に中央会場を設け開催しました。

14

スポーツとデザインが強力なタグを組む、モンテディオ山形との共同プロジェクト

山形をスポーツとデザインで盛り上げたいという思いから、東北芸術工科大学とモンテディオ山形との共同プロジェクトの実施が決定しました。既に学生を中心にホームゲームのボランティア協力や、モンテディオ山形に対する県民の意識調査の実施などの活動に協力させて頂いてきましたが、活動の領域を広げ、新たな学部教育の場として活用するとともに、芸術・デザイン系大学としての特性を生かし、モンテディオ山形の活動に積極的に関与していくこととなります。2008年シーズンにおいて、ホームゲーム運営や観客増加のための広報活動の協力や、インターシッピング、キャラクターグッズや応援グッズの企画提案およびデザイン、県民の意識調査、地域活性化プランの提案と実施などを予定しています。今後の展開にご期待下さい。モンテディオ山形 山形県スポーツ振興 21世紀協会 WEB: www.montedio.or.jp



TOPICS

02

著名な建築家が設計の現場を語った公開講座「199X-200X-201X」古谷誠章氏講演会

10月12日、茅野市民館などの設計で有名な建築家 古谷誠章氏を招いた講演会を開催しました。建築家として最良の空間・ボリュームを提案するための視点や、実際に建築が長い時間軸で進むことを想定し、ユーザーと共に進める設計の重要性などをお話し頂きました。

05

第75回独立展、権威ある展覧会でも複数の受賞、入賞

第75回独立展に卒業生が受賞、複数の在学学生が入賞しました。独立展は、絵画(洋画)のみの会派としては国内最大規模の団体「独立美術協会」が主催する展覧会です。新人賞: 高松和樹(卒業生)、入選: 棚澤寛(修士課程) / 松橋正高(修士課程) / 後藤隆(修士課程・初) / 佐藤恵(修士課程) / 渡邊健太郎(4年・初) / 山本明美(3年・初) / 近藤亜樹(2年・初)

08

版画の卒業生、在学生も大いに活躍 あおもり国際版画トリエンナーレ 2007

日本の版画文化を世界に普及すると同時に、豊かな表現力をとりこみ、版画界に新風をもたらすことをテーマとしている公募展「あおもり国際版画トリエンナーレ2007」に卒業生、在学生が入賞しました。展示は11月24日-12月9日に開催。入選: 大山貴也(修了生) / 古林玲美(修了生) / 齋藤大輔(修士2年) / 千葉さやか(修士2年)

11

版画の世界「Prints TOKYO 2007 巡回展」 「大学版画展受賞者展 巡回展」 世界の版画文化と日本の現状に迫った

11月17日-12月2日に、本学のほか、大学版画学会、日本版画協会の共催による展覧会として「版画の世界」と題し、「Prints TOKYO 2007 巡回展」、「大学版画展受賞者展 巡回展」を2会場同時開催しました。「Prints TOKYO 2007 巡回展」(国外50ヶ国426点、国内39都道府県408点の応募の内、受賞作を含めた全入選作120点)では世界各国の文化が反映される版画の現状を、「大学版画展受賞者展巡回展」(受賞作又は新作24点)では日本の大学で制作する若い学生たちの版画の現状を展示。また、講師に中林忠良氏(版画作家)と金澤毅氏(美術評論家)を招いたギャラリートークも開催。

15

今回のデザインカフェでは、ものづくりの心得をテーマに展開

デザインカフェは、分野を超えてデザインを語り合うワークショップ。今回はデザイン哲学研究所副所長の岡田真宏教授が「もの創り考」と題し、ものづくりをする人としての心得14項目について、お話し頂きました。

18

横浜日仏学院賞の受賞学生による「公共空間」サイトウナツミ展

11月19日-12月22日、情報デザイン学科映像コース4年の齊藤奈津美さんが横浜日仏学院賞を受賞し、横浜日仏学院にて個展を開催。山形の児童公園を巡り、ステルカメラで撮影した写真を展示しました。

21

第19回 旅人会 日本画展に本学教員、卒業生らが出品し存在感をアピール

10月10日-16日に銀座松坂屋で開催された第19回旅人会の日本画展に、卒業生のほか、本学教員や在学生らが出品。大学院博士課程: 高橋誠さん、卒業生: 桑原史史さん / 千種伸宣さん / 早川貴子さん / 野田歩さん、教員: 番場三雄准教授 / 谷善徳講師、賛助出品: 松本哲男学長、特別出品: 故 今野忠一 名誉教授

24

天童市田妻野地区との交流を題材にした作品展「みつたむぎの」で地域との交流深まる

東北芸術工科大学現代GP芸術工房ネットワーク、東北ルネサンスプロジェクトの一環として、天童市田妻野地区においては旧田妻野小学校の交流施設「ぼんぼこ」を中心に交流活動を行っています。12月2日-9日に、作品を通してより深い交流が生まれるきっかけとなることを目指し、地区にちなんだ作品展「みつたむぎの ~初画面~」を開催しました。

TOPICS

03

盆地つながりの山形と長野がともに輝いた山ぼん長ぼん工芸展

共に「盆地」という地理的条件の山形と長野。それぞれの場所で、互いに工芸に携わる東北芸術工科大学工芸コースの卒業生、大学院生14名と、あづみ野ガラス工房の作家6名による合同展を10月11日-21日に開催。全工: 佐藤悠子 / 西原佑騎 / 横沢美佳 / 横山良平、漆芸: 井上裕太 / 高宮瑠花 / 古川紗帆、陶芸: 松田由岐子 / 梅津洋実 / 根本裕子 / 藤本えりか、テキスタイル: 安附杏子 / 加藤由香 / 竹田佳代

06

本学のキャバと層の厚さを実証した助手・副手展

11月17日-12月3日、普段は学生の修学をサポートしている本学の助手・副手の有志による作品展を、芸術学部とデザイン工学部合同で開催しました。http://blog.prisms.jp/

09

第61回 二紀展の受賞、入選が重なるうれしいニュース

第61回二紀展に卒業生が受賞、複数の在学学生が入選しました。二紀展は、美術の第二の紀元を画するという目的で創設され、自由で個性的な作品が多く、全国でも評価が高い「二紀会」が主催する展覧会です。奨励賞: 渡辺まり(2007年大学院修士課程修了) 入選: 青山ひろゆき(卒業生・前年度助手) / 藤澤朋広(卒業生) / 斎藤直美(卒業生・初) / 武山信之(修士課程) / 小田志保(博士課程) / 芳賀一彰(修士課程) / 加藤彩子(修士課程) / 鈴木邦之(4年・初) / 高橋志帆(3年・初)

12

第7回 高知国際版画トリエンナーレに入賞、四国でも輝いた芸工大生たち

複数の美術科洋画コースの卒業生、在学生が入賞。佐藤妙子(2005年院修了) / 大山貴也(2007年院修了) / 三浦弘恵(修士1年) / 佐藤賢奈子(4年) / 李英圭(3年) / 野瀬昌樹(2年)

04

卒業展へのプロローグとして期待感を高めた「机展」 desktop presentation

10月17日-20日、卒業制作の経過発表として、グラフィックコース4年生が各自の机の上に現在取り組んでいるテーマを基にディスプレイを行う展示「机展」を開催しました。

07

第34回 創画展に複数の在学学生が入賞 大きな自信と実績となった

〈東京展〉日時: 10月17日-31日 会場: 東京都美術館 〈京都展〉日時: 11月3日-18日 会場: 京都市美術館 〈名古屋展〉日時: 11月20日-25日 会場: 愛知県美術館ギャラリー 入選: 設楽雅美 / 一ノ瀬桐子(修士1年) / 廣瀬直子(修士1年) / 田口緒里砂(修士1年) / 尾坪大輔(修士1年) / 古田正洋(修士2年)

10

受賞作品の展示が待たれる コンクレーデザインコンテスト 2007

情報デザイン学科グラフィックデザインコース4年の齋藤優祐さんが、「コンクレーデザインコンテスト 2007 japan,korea,taiwan」の課題「Golden Children's School」にて学生奨励賞を受賞。受賞作品は2008年2月16日(土)-28日(木)に展示されます。

13

第20回 コイズミ国際学生照明デザインコンペで 本学の学生2名が受賞

「あかりのあかり...これからの地球環境」をテーマにした第20回コイズミ国際学生照明デザインコンペでプロダクトデザイン学科3年の学生が受賞しました。銅賞: 「Shine-Light Inside-優しい光」丸山由郎、佳作・Web優秀賞: 小沢菜月

16

世を越えた日本画交流、味わい深い展示となった野桜展

11月1日-18日、日本画コースの卒業生有志と教員による作品展を今年も天童市美術館で開催。毎年開催されるこの展示は、普段顔を会わせる機会も少なく世も違う、多くの卒業生と教員との作品が一同に会する、日本画の同窓会のような味わい深いものとなっています。

19

高まる芸工大への関心、多くの高校生が参加した入試直前トライアル

12月15-16日、山形、東京、札幌の各会場で、いよいよ1月からはじまる一般入試試験とセンター利用型入試試験に向けて、入試相談会や模擬試験やセミナーなどを開催しました。多くの高校生にお越し頂きました。

22

早くも芸工大生気分を味わえた 1 DAY TUAD @ Apple Store Sendai

12月16日、大学生時代の作品と、今の作品を対比させながら、これからのCGの可能性を考えたトークイベント「1 DAY TUAD」をアップルストア仙台一番町で開催しました。AO入試などでTUADへ進学が決まった高校生にとっても、少し早い大学の講義として、入学までの過ごし方や準備しておきたいことも紹介しました。MC: 西村宣起(情報デザイン学科映像コース教授) ゲスト: 鹿野輝(本学卒業生・ワウ株式会社、映像クリエイター) / 小形美希(本学卒業生・ワウ株式会社、映像クリエイター)

25

2年生が手にしたビッグタイトル 立川ブラインドカラーコーディネートコンテストでグランプリ

プロダクトデザイン学科2年の津田絵理奈さんが、立川ブラインド「第9回ブラインドカラーコーディネートコンテスト」のシルキーイメージ部門で1241件の応募の中からグランプリを受賞しました。

17

第20回記念美浜美術展に続々入選し、確かな足跡を残す

以下の洋画コースの学生が第20回記念美浜美術展に入選しました。入選: 下河原聡子(卒業生) / 佐藤未来(卒業生) / 佐東恵(修士課程1年) 〈美浜展〉日時: 10月27日-11月16日 会場: 関西電力原子力事業本部ギャラリー 〈大阪展〉日時: 11月19日-24日 会場: 大阪府立現代美術センター 〈福井展〉日時: 12月11日-16日 会場: 福井県立美術館

20

仙台芸術遊泳 2007を盛り上げた 准教授や卒業生たちの作品

11月13日-12月27日にかけて開催された、光をメインテーマにした展覧会やワークショップ「仙台芸術遊泳 2007」に、映像コース卒業生の阿部信吾さん、大学院生産デザイン修了生の大沼剛宏さん、博士後期課程の酒井聡さんが出展しました。また松村泰三映像コース准教授も出展しました。

23

ステアと大学とのアートコラボ 「steART」で仙台にも広がる産学連携

12月1日-25日、東北芸術工科大学の産学連携プロジェクトとして、仙台でTUADアートプロジェクト「steART」を開催。情報デザイン学科グラフィックデザインコース坂本せみの4年生齊藤優介さん、橋本篤さん、泊篤志さんによる企画提案と、グラフィックのデザインを実施しました。仙台「ステア」は、デザイン的に特徴的な仙台市街でも注目の施設。エスカレーターが伸びる壁面に、クリスマスをテーマとしたビジュアルアート「Christmas Street Talk」を展開。WEB: www.stear.jp

26

これも地域貢献のカタチ、第8回「山形ふるさとCM大賞」最優秀賞を受賞

メディアコンテンツデザイン学科映像計画コースの3年生が制作したCM作品が、第8回「山形ふるさとCM大賞」最優秀賞を受賞。最優秀賞(大賞)作品は、YTS山形テレビで放送される他、東北各県でも2008年4月から9月までの期間放送されます。タイトル: 「ロマンティック山形市」篇、作品時間: 30秒、制作者: 棚澤朋美 / 高橋里絵 / 中谷侑加 / 佐々木美智 / 角田あゆみ / 菊地由紀 / 東海林志乃

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE WEB

12/22-2/20

際立つ、調和する、さまざまな存在感

写真・映像をメディアとして制作活動を行う30代の新進作家4人に焦点をあてたグループ展に、歴代敏情報デザイン学科准教授が出品します。『日本の新進作家 Vol.6 スティール|アライブ』
日時:2007年12月22日(土)~2月20日(水)
10:00-18:00(月曜日休館)
会場:東京都写真美術館2階展示室



12/26-1/27

岡村桂三郎の作品に会える

岡村桂三郎美術科教授が作品展に出品します。埼玉県にゆかりのあるアーティストの中から、学芸員が注目するアーティストが選出され、その活動が紹介される展覧会です。『ニューヴィジョンサイタマIII ~7つの眼×7つの作法~』
会期:2007年12月26日(水)~1月27日(日)
会場:埼玉県立近代美術館

1/7-31

石鳥居を通して見渡す地域文化

地域文化遺産の現状と未来の俯瞰を目的とし、山形に残る日本最古の石鳥居群と地域の展開空間を飛ぶ。飛行ルートは地域の自然と生活空間そして文化遺産。この飛行は地域文化創造への認識共有へとつながります。『空飛ぶ鳥居一俯瞰視野による日本最古の石鳥居群の姿』
日時:1月7日(月)~31日(木) 10:00-17:00
会場:本学文化財保存修復研究センター展示室
入場料:無料
主催:本学文化財保存修復研究センター(ギャラリートーク)
1回目:1月9日(水) 18:30-20:00
2回目:1月16日(水) 18:30-20:00

日時:1月7日(月)~31日(木) 10:00-17:00
会場:本学文化財保存修復研究センター展示室
入場料:無料
主催:本学文化財保存修復研究センター(ギャラリートーク)
1回目:1月9日(水) 18:30-20:00
2回目:1月16日(水) 18:30-20:00

1/10-22

若さと勢いと、その他諸々がここちいい

情報デザイン学科映像コース2年生写真課題の展示会です。『EMAKI展(仮)』
日時:1月10日(木)~22日(火) 9:00-18:00
会場:本館北エントランス前フロア

1/15-25

わびさびと宇宙の広がりを感じて

茶道具をテーマにした工芸コースの教員による作品展を開催します。作り手として工芸の素材に向き合いその深淵な世界を覗き込むと、宇宙的な広がりがあります。工芸素材の世界に耳を澄ませ、茶道具の取り合わせの中に宇宙を感じ、一緒に楽しんで頂ければ幸いです。『素材の宇宙 ~茶のしつらえ~』
日時:1月15日(火)~25日(金) 9:00-18:00(日曜休館)
会場:本館7階ギャラリー
同時開催:『山中コレクション展』

1/16

山形での取材・撮影秘話にも期待

『立花文穂の球体のはなし』では、山形県内各所での取材成果を示しつつ、「東北」をテーマとする雑誌の編集とデザインのプロセスを、「公開編集」によって学生たちに開示。アーティストとしても国際的に活躍する立花文穂氏が見て感じた「東北/山形」が、どのように紙面に編まれ『球体』を形成していくのか?実験的な雑誌『球体』の現在進行形のクリエイションに立ち合う、ライブ感覚トークです。『立花文穂の球体のはなし』
日時:1月16日(水) 17:30-19:30
入場料:無料
会場:こども芸術教育研究センターこども劇場
協力:情報デザイン学科グラフィックデザインコース/六耀社/肘折温泉地区

1/17

人とデザインの可能性について考える

人間がいるところには必ずデザインが存在する、デザインの視点で人間について改めて考えを巡らせてみる、との思いのうえで、「多くの人々と考え続ける」場、(21_21 DESIGN SIGHT)が2007年に開館。その活動内容を紹介しながら、デザインを軸に世の中に目を向け思考する行為の重要性について、異分野をデザインによって結びつけていく行為とそこから広がる様々な可能性について考えます。『川上典孝子氏講演会「デザインから拓げていく~21_21 DESIGN SIGHTの活動を事例に~」』
日時:1月17日(木) 17:30-19:30
会場:407講義室
入場料:無料



1/19-25

素材の才能と作り手の思いの合作

美術科工芸コース2年生が、金工、陶芸、漆芸、テキスタイルの4分野で様々な素材に触れ、感じ、創り上げた作品をどうぞご覧下さい。『東北芸術工科大学美術科工芸コース2年生課題作品展』
日時:1月19日(土)~25日(金) 9:00-17:00
会場:悠創館

2/1-6

日本画コース、一足お先に上野で卒業

本学で開催する2007年度卒業・修了研究/制作展より一足先に、美術科日本画コースと大学院日本画専攻による制作展を開催します。『2007年度 東北芸術工科大学 日本画 卒業・修了制作展』
日時:2月1日(金)~6日(水) 10:00-17:00(最終日15:00まで)
会場:上野の森美術館(東京都台東区上野公園)



2/1-16

東北ルネサンスプロジェクト in 仙台

『聞き書きの作法 野添憲治(作家)×赤坂憲雄』赤坂憲雄氏がコーディネートする講座では、作家、思想家、芸術家などをゲストに招き、東北の地で知の系譜をひもときます。
日時:2月1日(金) 19:00-(開場18:30)
会場:エルパーク仙台セミナーホール
参加費:一般1,000円、学生500円、高校生以下無料
『恋愛小説の方法と意識 村山由佳(作家)』山形在住の文芸評論家・池上冬樹氏をコーディネータに、作家や評論家をゲスト講師に招きます。
日時:2月9日(土) 17:00-(開場16:30)
会場:仙台市文学館
参加費:一般1,500円、学生750円、高校生以下無料
『写真雑誌・写真集について 伊勢功治(装丁家・デザイナー)』出版業界の第一線で活躍する雑誌・書籍の編集者、写真家、デザイナーなどを講師に招き、本や雑誌の制作について、現場からの声を通じて学びます。
日時:2月16日(土) 17:00-(開場16:30)
会場:仙台市文学館
参加費:一般1,500円、学生750円、高校生以下無料

2/5-10

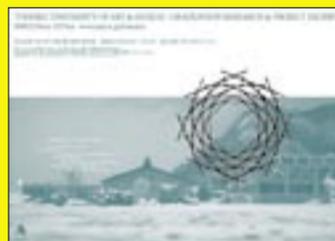
院生が描き出す、魅力ある質感とシルエット

東京事務所企画展で、今回は博士後期課程の小田志保さんの個展。テンペラ混合技法を用い、シルエットや質感にこだわった作品です。『小田志保展 ~Shiho Oda Exhibition~』
日時:2月5日(火)~10日(日) 11:00-18:30(会期中無休/最終日17:00まで)
会場:ギャラリーf分の1(東京都千代田区神田駿河台)
入場料:無料
TEL・FAX:03-3293-8756
WEB:www.galleryf-1.net

2/10-17

創作の集大成が大学を埋め尽くす

『東北芸術工科大学 卒業/修了研究・制作展』
会期:2月10日(日)~17日(日)
会場:東北芸術工科大学キャンパス
詳しくは裏面で!



2/29-3/5

撮った、感じた、メッセージは写真の中に

情報デザイン学科映像コース3年生で写真を専攻している学生の展覧会です。『ボスダルメシアン』
日時:2月29日(金)~3月5日(水) 10:00-
会場:せんだいメディアテーク 5階ギャラリーC

3/3-8

学生生活の集大成、創作の日々の記念に

2007年度版画専攻卒業生によるグループ展です。『東北芸術工科大学洋画コース版画専攻修展』
日時:3月3日(月)~8日(土) 11:00-19:00(最終日17:00まで)
会場:銀座東和ギャラリー(東京都中央区銀座)

3/23

たさんの学びと自信と思い出を胸に

『平成19年度卒業式』
日時:3月23日(日) 10:00-
会場:本学体育館



3/25-31

4年間が凝縮させたもう一つの卒業

情報デザイン学科映像コース4年生の写真ゼミ生による卒業制作展東京版です。『東北芸術工科大学 写真ゼミ卒業制作展 ~二度と登校はしない~』
会期:3月25日(火)~31日(月)
会場:新宿ニコソサロン bis

3/26-4/3

山形生まれの作品群が東京へと大移動

美術科(日本画・洋画・彫刻・工芸)の卒業・修了制作東京展です。山形の豊かな自然と雄大な大地から生まれ出た、若き表現者たちの新鮮な感覚と次代へ向けての真摯な制作姿勢、そして可能性を是非とも感じて頂ければと思います。『東北芸術工科大学 卒業・修了展/東京展』
日時:3月26日(水)~4月3日(木) 9:00-17:00(入場16:30まで)
入場料:無料
会場:東京都美術館(東京都台東区上野公園)
(オープニングレセプション)
3月26日(水) 17:00-19:00(16:30受付開始)
TEL:03-3823-6921 FAX:03-3823-6920
WEB:www.tobikan.jp

4/6

たさんの希望と理想と大志を胸に

『平成20年度入学式』
日時:4月6日(日) 10:00-
会場:本学体育館



「あなたの作品、寸評室」出品者募集!

あなたの作品も、専門の先生の寸評を受けてみませんか。絵画、陶芸、工芸、CG作品など何でも結構です。芸工大が誇る層の厚い先生達がやさしく的確に評価し、今後につながるアドバイスをいたします。ご希望の方は、1.住所、2.氏名、3.生年月日、4.職業、5.平日の日中に連絡が取れる連絡先と併せて、6.作品のジャンル、7.大きさや重さ、8.概要を以下の窓口までご連絡ください。

FAX:023-627-2185

E-mail:hello-gg@aga.tuad.ac.jp

※ご連絡頂いた情報は、本目的以外には使用致しません。

OPEN GALLERY

WELCOME TO TUAD

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN | GRADUATION RESEARCH & PROJECT EXHIBIT

東北芸術工科大学 卒業/修了研究・制作展

今年も芸工大キャンパスを舞台に卒業生・修了生たちによる最終プレゼンテーションが繰り広げられます。

はじめて会場をキャンパスに一本化して開催された昨年の卒展。あの興奮と臨場感がもうすぐ帰ってきます。今年で13回目となる「卒業/修了研究・制作展」もまた、雪をたたえる高台のキャンパスがステージ。今回の卒展テーマは、学部学科を超え、一人ひとりがつながって一つにな

る真の一体感。キーワードは「巣」。自分たちの巣とも言える芸工大キャンパスから何かを発信し、キャッチしようというもの。さらにパワーアップした卒展にすべく、卒業・修了生はもちろん、送り出す在学生たちも準備の最終段階に入っています。ここに紹介する卒業生は、芸工大のプロ

ダクト系と芸術系を象徴するような2人です。靴に魅せられた藪崎君が渾身の思いを込めて工具を握れば、独特の世界を描き続ける洋画の菊地君は音楽に合わせて筆を運ぶ。対照的なまでに表現形態は違っても卒展にかける思いは同じ。緊張感が高まる制作現場に2人を訪ねました。



これまでにデザインを手掛けた革靴を前に、靴への愛情を語る。

「クツの話で盛り上がる、靴工房のようなブースにしたい」

藪崎大地 (プロダクトデザイン学科4年)

小学生の頃から靴のデザイナーになりたかったという藪崎さん。夢を叶え、この春からは靴のデザイナーとしての第一歩を踏み出します。藪崎さんが目指しているのは、単にファッション性を追求するだけのデザイナーではなく、人間工学に基づいて履く人にぴったりの靴を作り出す医者のような靴職人。「この人が僕の師匠です」と見せてくれたは、英国の靴職人と藪崎さんが一緒に写った写真。靴作りを学ぶために英国にまで渡ったのです。偶然にも、山形県内にも高級靴の工場があり、そこで勉強する機会にも恵まれました。卒展には、その工場の協力で作り上げた数足に加えて、女性用の靴にも挑戦して間に合わせたい考えです。そして、単なる展示ではなく、エプロン姿の藪崎さんとのコミュニケーションが楽しめる靴工房のようなブースをイメージしています。本当に靴を愛する藪崎さんならではの卒展ブース、非常に気になります。

「音楽や小説で受けた衝撃が描きたいという衝動になる」

菊地渉 (美術科洋画コース4年)

構内のアトリエを訪ねたその日も菊地さんはヘッドホンを着け、自分の世界で制作に没頭していました。音楽を聴きながらキャンパスに向かうのが菊地さんスタイル。おとなり宮城県出身ながら、芸工大はまったく未知の世界だったものの、いざ、来てみると雪に驚き、自然に感動し、存分に制作に集中することができた4年間だったと振り返ります。常にテーマとしてきた「現実と非現実」を卒展に昇華させるために、幾つもの作品を候補として仕上げに入っていました。ただ、その仕上げがなかなかままならない。昨日よしとしたものが今日はどうしても納得できない、そんな葛藤を繰り返す日々。「観る人に現実から非現実へと吸い込まれていくようなワープ感を感じてもらえればいいかな」と物静かな語り口ながら作品に込めた強い思いは譲れない様子。言葉では伝えきれない彼からのメッセージ、ぜひ卒展会場で感じてください。



完成前の作品が数点。どれが卒展会場を飾るかは、この時点では未知。

「がんばる卒展ディレクターズ、この取り組みが私の卒業制作」

田中史世 (美術科彫刻コース4年)



宮島副学長に卒展のテーマやデザインについて報告をする卒展ディレクターズ。写真中央・宮島副学長の右隣が田中さん。副学長が手にしているのはインフォメーションBOXの模型。

昨年から新たなスタイルでスタートした卒展をより進化させ、より学生主体の卒展へと育てていくために、今年も卒展ディレクターズががんばっています。1～3年生のボランティアで構成されているこの組織をまとめているのが4年生の田中さん。田中さんは、卒展ディレクターズのメンバーとして活動した昨年の経験を生かし、今年はこの取り組みを自らの卒業制作と位置づけ、卒展全般の企画運営に携わっています。今年の卒展は「蜘蛛の巣」「蜂の巣」「鳥の巣」がアイキャッチャー。密度の濃いメッセージ性が感じられます。学科ごとに展示棟は独立していても学科を越えて一つになる、それが卒展2007。構内に3カ所のインフォメーションBOX「HONEY・COME」を設置して会場案内を徹底し、学科別パンフレットにして集めて回る仕掛けにします。今年もビッグゲストを迎えてのトークショーなど、企画内容もさらに充実。ご期待ください。

卒展2007の公式ウェブサイト。イベントの最新情報や、卒展までの学生の姿を追ったドキュメントレポートなどを紹介しています。(※画面は作成中のものです。) WEB: www.tuad.ac.jp/sotsuten/

『東北芸術工科大学 卒業/修了研究・制作展』

日時: 2月10日(日) - 17日(日) 10:30-18:00 (会期中無休/入場は17:30まで)
会場: 東北芸術工科大学キャンパス
主催: 東北芸術工科大学
運営: 2007年度東北芸術工科大学卒展運営委員会
企画: 卒展ディレクターズ/美術館大学構想室
お問い合わせ: 東北芸術工科大学美術館大学構想室
Tel.023-627-2043 museum@aga.tuad.ac.jp